

2026年3月期 決算補足資料 (2025年4月－2026年3月)

2026年5月11日

Umios 株式会社 (TSE : 1333)



26年3月期

実績

- ▶ **営業利益が過去最高の312億円を達成（前年同期比2.7%増）**
 - ・水産資源セグメントの収益大幅改善と欧州事業好調が貢献し、全体で増収増益
 - ・一過性の企業変革費用20億円※¹を除くと**実質332億円**
- ▶ **親会社株主に帰属する当期純利益は222億円（前年同期比4.7%減）**
 - ・特別利益は、政策保有株式の縮減・不動産等の売却などにより115億円
 - ・特別損失は、本社移転費用を含め32億円計上
 - ・中計方針である配当性向30%以上（累進配当）にもとづき、**2026年2月9日に修正した1株当たり期末配当金24円に対してさらに4円増配し、28円※²。年間配当の配当性向30.4%**

27年3月期

計画

- ▶ **営業利益は320億円を計画（前年同期比2.6%増）**
 - ・一過性の企業変革費用約30億円を除くと、**実質350億円**
 - ・事業構造改革や商品ポートフォリオ見直し・ペットフードの販売強化など収益向上に努める
- ▶ **親会社株主に帰属する当期純利益は150億円を計画**
 - ・資産効率化を継続し、特別損益約20億円を見込む
 - ・年間配当金は1株当たり45円（中間：22円、期末23円）を予想。**配当性向45.4%**

1.	2026年3月期 概況	p.4
2.	2027年3月期 通期計画	p.14
3.	Appendix	p.22

1. 2026年3月期 概況

全体業績（連結）



（単位：億円）

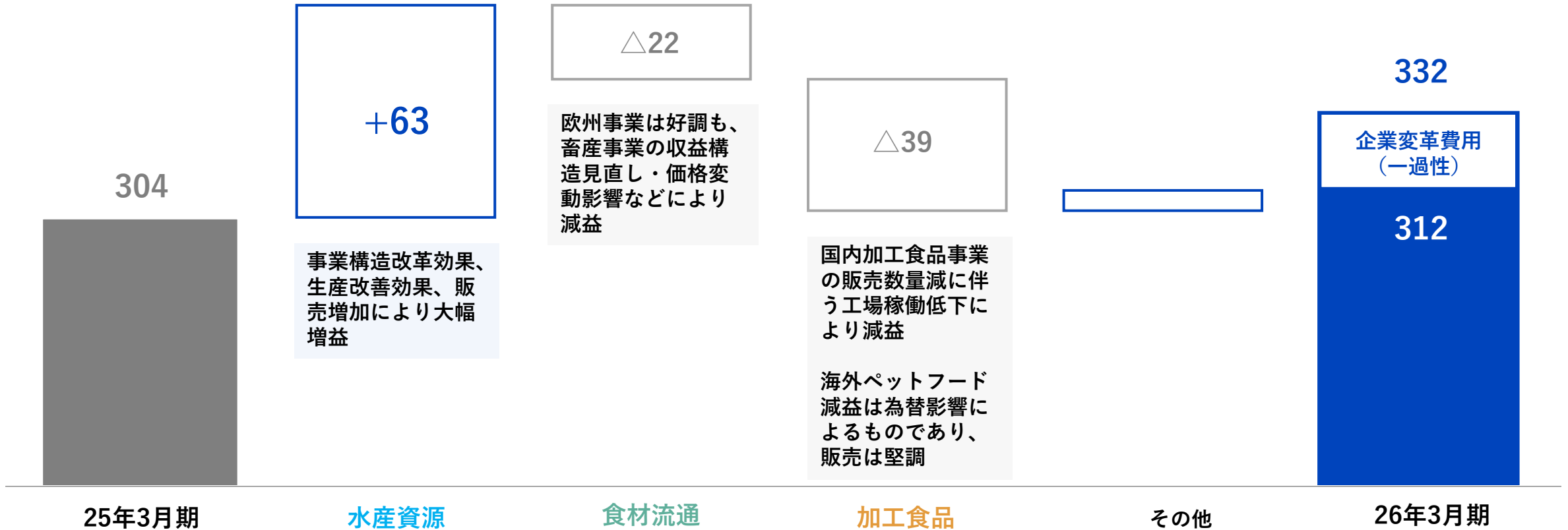
	26年3月期	25年3月期	前年同期比		26年3月期 計画	計画達成率
			増減	増減率		
売上高	11,059	10,786	+273	+2.5%	10,800	102%
営業利益	312	304	+8	+2.7%	300	104%
（一過性の企業変革費用を除く）	(332)	(304)	(+28)	(+9.2%)	—	—
営業利益率	2.8%	2.8%	—	—	2.8%	—
経常利益	313	323	△ 10	△ 3.1%	290	108%
親会社株主に帰属する 当期純利益	222	233	△ 11	△ 4.7%	195	114%
EBITDA	531	516	+15	+2.9%	500	106%
ROE	9.3%	10.7%	△ 1.4pt	—	7.5%	—
ROIC	4.1%	4.3%	△ 0.2pt	—	4.0%	—
ネットD/Eレシオ	1.0倍	1.0倍	—	—	1.0倍	—

為替レート	26年3月期	25年3月期
米ドル	150.43 円	151.44 円
ユーロ	169.18 円	163.80 円
タイバーツ	4.57 円	4.31 円

営業利益の増減分析（前年同期比）



（単位：億円）



2026年3月期 概況：水産資源セグメント



・事業構造改革効果、生産改善効果、販売増加により大幅増益

(単位：億円)

	26年3月期	25年3月期	前期比	
			増減	増減率
売上高	1,294	1,276	+17	+1.4%
漁業	345	386	△ 41	△10.6%
養殖	211	174	+38	+21.7%
北米	738	717	+21	+2.9%
営業利益	24	△ 39	+63	—
国内	1	△ 24	+26	—
海外	23	△ 15	+38	—
営業利益率	1.9%	—	—	—

ユニット別 要因分析

漁業

売上高 ↓ 営業利益 ↑

ミクロネシア海域のカツオの漁獲減や魚価低迷により減収。一方で操業効率の改善などによる漁獲増や不採算事業からの撤退などにより増益。

養殖

売上高 ↑ 営業利益 ↑

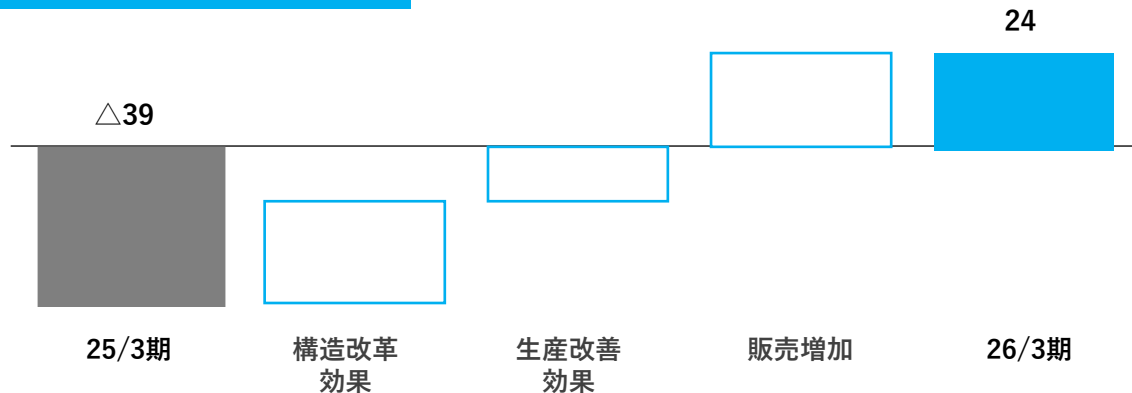
ブリ・カンパチの販売価格が堅調。生産コスト（飼料費、人件費、物流費など）の高止まり継続も、増収効果、輸出増加ならびに歩留まり改善により増益。

北米

売上高 ↑ 営業利益 ↑

スケソウダラ製品相場が堅調に推移。生産拠点の統合などによるコスト低減効果やカニカマ製品の販売も順調に推移し大幅増益。

セグメント利益 増減要因分析



構造改革効果	<ul style="list-style-type: none"> ・漁業での不採算事業の撤退、操業効率の改善 ・北米生産拠点の統合など
生産改善効果	<ul style="list-style-type: none"> ・養殖の高水温対策（沈下式生簀導入及び水中給餌の確立） ・北米スケソウダラ事業でのフィレ製造比率向上など
販売増加	<ul style="list-style-type: none"> ・養殖魚の販売単価上昇、輸出増 ・北米カニカマ製品の販売好調

2026年3月期 概況：食材流通セグメント



・欧州事業は好調も、畜産事業の収益構造見直し・価格変動影響などにより減益

(単位：億円)

	26年3月期	25年3月期	前期比	
			増減	増減率
売上高	7,699	7,511	+189	+2.5%
水産商事	4,426	4,184	+242	+5.8%
食材流通	2,487	2,405	+82	+3.4%
農畜産	787	921	△135	△14.6%
営業利益	158	180	△22	△12.5%
国内	93	123	△30	△24.5%
海外	65	57	+8	+13.8%
営業利益率	2.0%	2.4%	△0.4pt	—

ユニット別 要因分析

水産商事

売上高 ↑ 営業利益 ↑

<国内> ホタテやエビなど水産物全般の販売が好調に推移。
<欧州> 主力商品の収益性向上に加え、2025年5月に取得した欧州子会社の利益も貢献。

食材流通

売上高 ↑ 営業利益 ↓

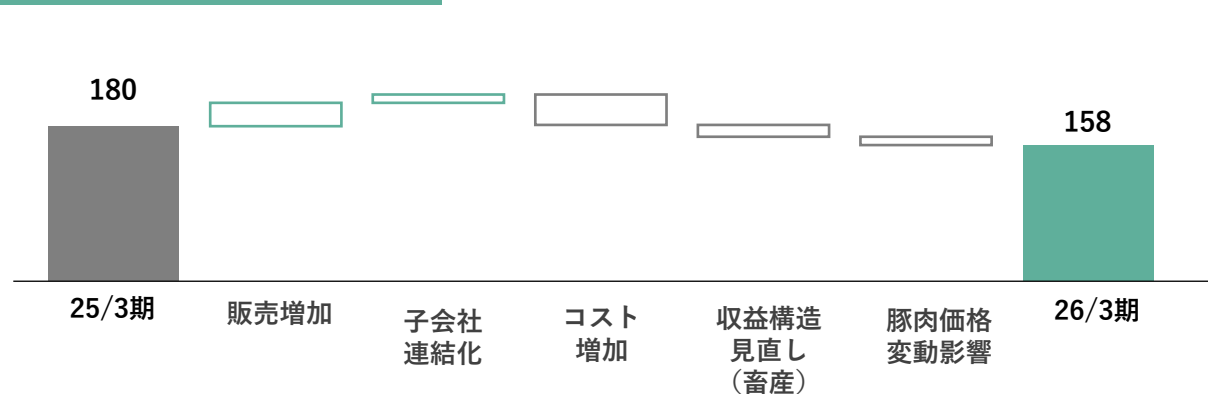
グループ内連携を強化し、業態ニーズを的確に捉えて販路を拡大したことにより増収。
一方で、業務効率の改善や生産性向上に努めたものの、コスト上昇分を補いきれず減益。

農畜産

売上高 ↓ 営業利益 ↓

畜産事業の収益構造の見直しを継続中。加えて、国内市場における輸入冷凍豚肉の需給調整に伴う価格変動の影響により減収減益。

セグメント利益 増減要因分析



<Topic> 水産商事 & 食材流通 & 農畜産の共創事例

ユニット間連携により産業給食向けの販売拡大

- ・2025年4月、グループ全体のあらゆる商材を提供することを目的に、給食食材営業部を新設（食材流通ユニット）
- ・水産品・農産品・畜産品、また各種ミックス商品を展開
- ・水産商事ユニットとの連携強化において、水産物の取扱が増加し、販売数量・金額ともに前年同期比で約1割増加

2026年3月期 概況：加工食品セグメント



・国内加工食品事業の販売数量減に伴う工場稼働低下により減益。海外ペットフード減益は為替影響によるものであり、販売は堅調

(単位：億円)

	26年3月期	25年3月期	前期比	
			増減	増減率
売上高	1,858	1,798	+60	+3.3%
加工食品	1,774	1,719	+55	+3.2%
ファインケミカル	83	79	+5	+5.9%
営業利益	101	139	△ 39	△27.7%
国内	34	53	△ 19	△36.0%
海外	67	86	△ 19	△22.6%
営業利益率	5.4%	7.7%	△ 2.3pt	—

ユニット別 要因分析

加工食品

売上高 ↑ 営業利益 ↓

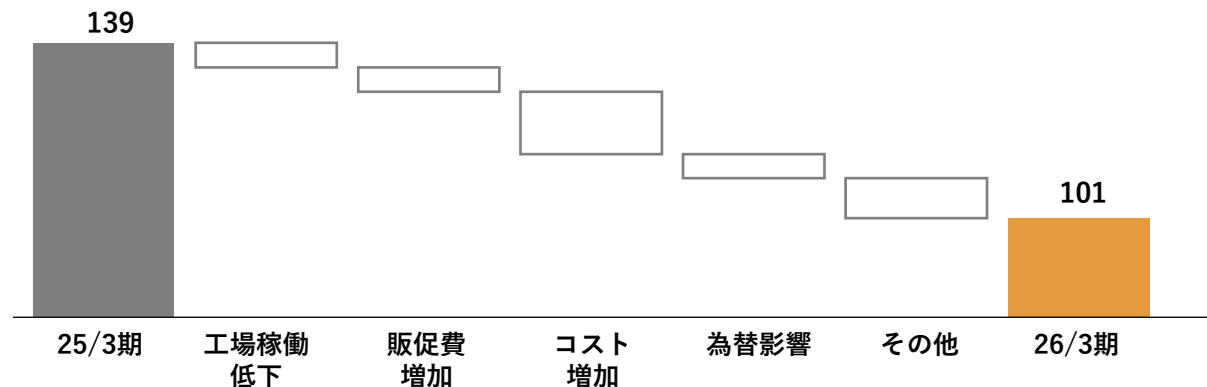
<国内> 価格改定後の販売が計画未達により減益
 <海外> ペットフードは販売堅調。一方で為替影響による利益率低下、ならびに水産加工における原材料の高止まりにより減益

ファインケミカル

売上高 ↑ 営業利益 ↓

医薬品向けの販売が底堅く推移

セグメント利益 増減要因分析



工場稼働低下	国内加工食品における価格改定後の販売数量減に伴う工場稼働低下
販促費増加	CMを含めた販促費の増加
コスト増加	国内外の原材料価格上昇を含めたコストの増加
為替影響	ペットフード事業（タイ）、水産加工事業（タイ）
その他	パッケージ改定費用ほか

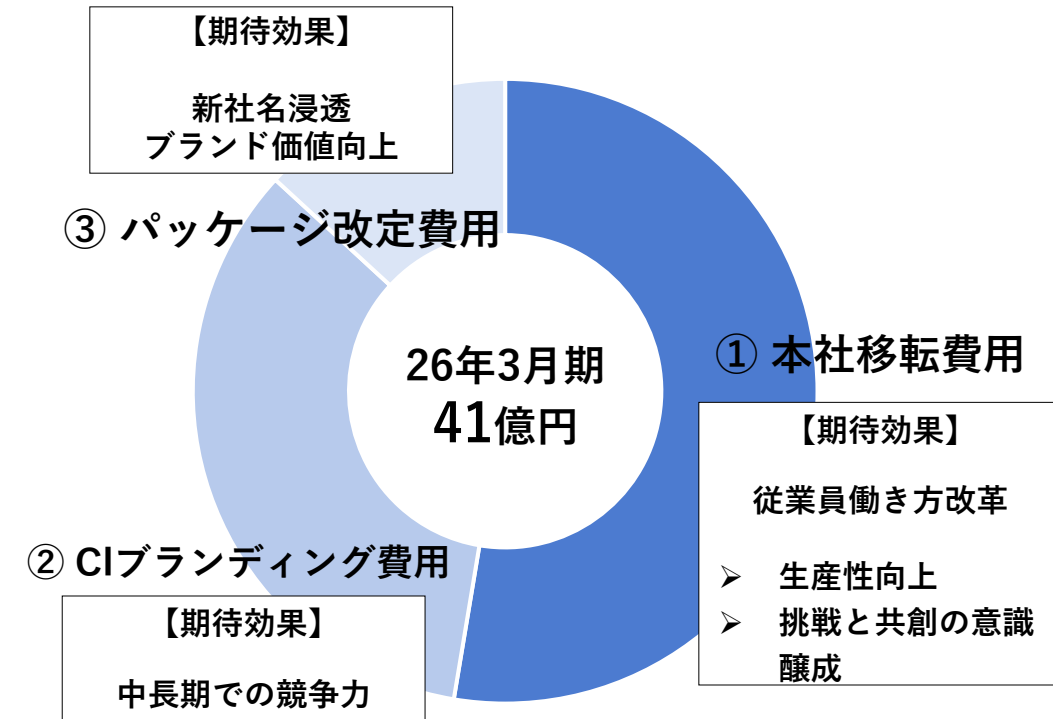
企業変革費用の内容と支出イメージ

- 企業変革費用として41億円支出（うち21億円は特別損失に計上）
- パッケージ改定費用は各事業セグメントで支出

<項目別の年度別支出イメージ>

		26/3期		27/3期	28/3期
		3Q	4Q		
合計		41億円 (うち特損計上21億円)		約30億円	約20億円
販管費	①本社移転費用 (26年3月実施)		→		
	②CIブランディング費用 (26年3月社名変更)		→	→	
	③パッケージ改定費用	→	→		
特別損失（本社移転費用）			→		

<2026年3月期の内訳>



(単位：億円)

	26年3月期	25年3月期	増減
売上高	11,059	10,786	+273
売上原価	9,519	9,330	+189
売上総利益	1,540	1,456	+84
販売費・一般管理費	1,228	1,152	+76
営業利益	312	304	+8
営業外収益	54	69	△15
営業外費用	54	51	+3
経常利益	313	323	△10
特別利益	115	119	△4
特別損失	32	22	+10
税金等調整前当期純利益	395	419	△24
法人税等	113	121	△9
非支配株主に帰属する当期純利益	61	66	△5
親会社株主に帰属する当期純利益	222	233	△11

内訳

営業外収益（前期比△15）

・ 為替差益 3億円（前期比△15）

特別利益（前期比△4）

・ 固定資産売却益
36億円（前期比+29）

・ 投資有価証券売却益
77億円（前期比△32）

連結貸借対照表



(単位：億円)

	26年3月末	25年3月末	増減	主な内容（前期末比）
流動資産	4,575	4,146	+429	現預金（+49）、売上債権（+105） 棚卸資産（+267）
固定資産	2,942	2,666	+276	有形固定資産（+137） 無形固定資産（+20） 投資有価証券（+38）
資産合計	7,517	6,812	+705	
流動負債	2,813	2,369	+444	仕入債務（+91） 短期借入金（+43） コマーシャルペーパー（+240）
固定負債	1,789	1,689	+100	長期借入金（△103）、社債（+180）
負債合計	4,602	4,058	+544	
株主資本	2,036	1,971	+65	利益剰余金（+166）、資本剰余金（△102）
その他包括累計	437	325	+112	
非支配株主持分	443	458	△16	
純資産合計	2,915	2,754	+161	
負債純資産合計	7,517	6,812	+705	
有利子負債	3,069	2,709	+360	
ネットD/Eレシオ	1.0倍	1.0倍	-	
自己資本比率	32.9%	33.7%	△ 0.8pt	

連結キャッシュ・フロー計算書



(単位：億円)

	26年3月期	25年3月期	増減	主要内容
営業活動による キャッシュ・フロー	248	392	△ 144	<ul style="list-style-type: none"> ・税金等調整前当期純利益 (395) ・減価償却費 (のれん含む) (201) ・投資有価証券売却損益〈益：△〉 (△77) ・売上債権の増減額〈増加：△〉 (△59) ・棚卸資産の増減額〈増加：△〉 (△194) ・仕入債務の増減額〈減少：△〉 (68) ・法人税等の支払額 (△121)
投資活動による キャッシュ・フロー	△212	△ 19	△193	<ul style="list-style-type: none"> ・有形固定資産の取得による支出 (△253) ・投資有価証券の売却償還による収入 (109) ・利息および配当金の受取額 (21)
財務活動による キャッシュ・フロー	△ 8	△ 294	285	<ul style="list-style-type: none"> ・短期借入金の増減額〈減少：△〉 (△54) ・長期借入金の増減額〈減少：△〉 (△45) ・コマーシャルペーパーの増減額〈減少：△〉 (240) ・連結の範囲の変更を伴わない子会社株式の取得による支出(△154) ・社債の発行による収入 (179) ・配当金の支払額 (△55)
現金・現金同等物の 期末残高	529	484	45	—

営業CF減少の要因

- ①棚卸資産の増加
 - ・原材料高
 - ・製品相場上昇
- ②売上債権の増加
 - ・販売増加
- ③税金等調整前当期純利益の減少

2. 2027年3月期 通期計画

- 営業利益は3期連続増益の320億円を計画。年間配当は45円とし配当性向は45%を予想

(単位：億円)

	27年3月期 計画※(A)	26年3月期 実績(B)	28年3月期 中計最終年度	増減 A-B	増減率
売上高	11,100	11,059	11,500	+41	+0.4%
営業利益	① 320	312	400	+8	+2.6%
(一過性の企業変革費用除く)	(350)	(332)	(420)	(+18)	+5.4%
営業利益率	2.9%	2.8%	3.5%	+0.1pt	—
経常利益	300	313	—	△13	△4.0%
親会社株主に帰属する 当期純利益	150	222	—	② △72	△32.4%
ROIC	4.3%	4.1%	5.0%	+0.2pt	—
配当性向	③ 45.4%	30.4%	—	+15.0pt	—
(参考) 1株当たり当期純利益	99.22円	146.75円	—	—	—

① 企業変革費用約30億円を販管費計上
(CIブランディング費用)

② 前期は特別利益115億円。そのうち約77億円を
「投資有価証券売却益」として計上。今期は特別損益
約20億円程度を想定

③ 累進配当方針により、1株当たり年間配当金額は今期
も45円を維持予定

為替レート

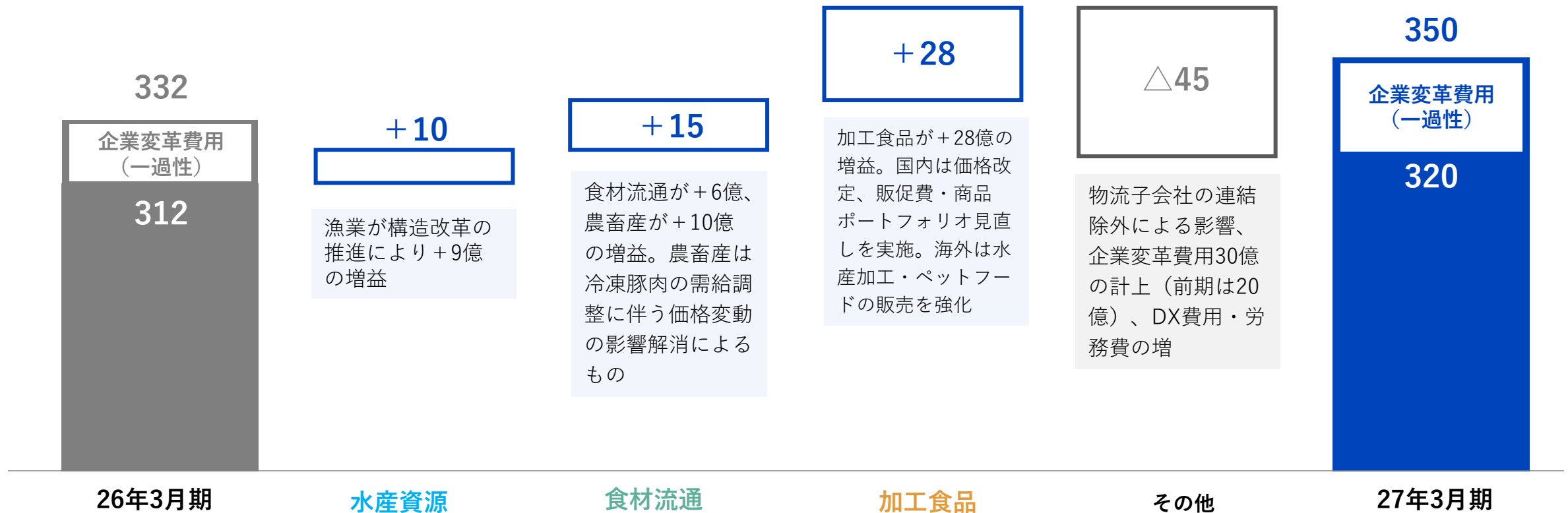
	27年3月期 計画	26年3月期 実績
米ドル	156.56 円	150.43 円
ユーロ	184.33 円	169.18 円
タイバーツ	4.97 円	4.57 円

※本通期計画は、現時点では中東情勢の影響を合理的に見積もることが困難であるため、当該影響を織り込んでおりません。

2027年3月期 通期計画 営業利益の増減分析



- ・ 3セグメント合計で54億円増益、その他による減益要因（一過性費用含む）を考慮すると、連結では9億円の増益を計画
- ・ 中東情勢による定量的な影響は現時点で計画に織り込んでいないものの、今後の情勢は慎重に注視



2027年3月期 通期計画：水産資源セグメント



・ 漁業が構造改革の推進により +9億の増益

	27年3月期計画	26年3月期	(単位：億円)	
			増減	増減率
売上高	1,215	1,161	+54	+4.7%
漁業	341	345	△4	△1.2%
養殖*	102	98	+4	+4.1%
北米	772	718	+54	+7.5%
営業利益	27	17	+10	+58.8%
国内	△5	△6	+1	—
海外	32	23	+9	+39.1%
営業利益率	2.3%	1.5%	+0.8pt	—

※27年3月期より、養殖魚の販売部門が販売強化の為に食材流通セグメントの水産商事ユニットに組織移動

ユニット別 施策

漁業

- ・ 不採算事業からの早期撤退、漁船の選択と集中を推進
- ・ 新船投入により操業効率を改善
- ・ 川下戦略を推進

養殖

- ・ 高水温対策をはじめとした原価低減策を引き続き推進
- ・ 生産体制の強化

北米

- ・ 高収益製品の製造比率向上による、収益力の安定と強化を目指す
- ・ 生産コスト低減を引き続き図る

ユニット別 事業環境

漁業	・ 燃油価格の動向を注視
養殖	・ 生産コスト（飼料費、人件費、物流費など）の更なる上昇を見込む
北米	・ 主力商材相場は概ね堅調 ・ カニカマ事業は堅調な消費が継続する見込みも、生産コストの上昇を懸念

2027年3月期 通期計画：食材流通セグメント



・食材流通が+6億、農畜産が+10億の増益。農畜産は冷凍豚肉の需給調整に伴う価格変動の影響解消によるもの

(単位：億円)

	27年3月期計画	26年3月期	前期比	
			増減	増減率
売上高	7,700	7,832	△132	△1.7%
水産商事 [※]	4,537	4,559	△22	△0.5%
食材流通	2,475	2,486	△11	△0.4%
農畜産	687	787	△99	△12.6%
営業利益	179	164	+15	+9.1%
国内	107	101	+6	+5.9%
海外	72	64	+8	+12.5%
営業利益率	2.3%	2.1%	+0.2pt	—

※27年3月期より、養殖ユニットの養殖魚販売部門が販売強化の為に組織移動

ユニット別 施策

水産商事

- ・グループ内の川上・川下との更なる連携強化
- ・欧州における事業領域と販売拡大を目指す

食材流通

- ・川下機能を生かしたグループ連携強化、バリューサイクルの推進
- ・海外事業の推進

農畜産

- ・畜産事業の収益構造見直しを継続

ユニット別 事業環境

水産商事	・商材価格は高値圏継続
食材流通	・原材料・エネルギー価格の動向を注視
農畜産	・各種畜肉の高値相場が継続する見込み

<Topic> 鮮魚販売部門を統合

水産商事ユニットと養殖ユニットの販売部門を統合

- ・2026年4月より、養殖ユニットから養殖魚販売部門を水産商事ユニットに移管
- ・水産物流通におけるグループ内連携を強化し、養殖魚の収益性向上に努める
- ・欧米・アジアに向けた輸出拡大にも注力

2027年3月期 通期計画：加工食品セグメント



- 加工食品が+28億の増益。国内は価格改定、販促費・商品ポートフォリオ見直しを実施。海外は水産加工・ペットフードの販売を強化

(単位：億円)

	27年3月期計画	26年3月期	前期比	
			増減	増減率
売上高	1,979	1,858	+121	+6.5%
加工食品	1,885	1,765	+121	+6.9%
ファインケミカル	94	93	+1	+1.1%
営業利益	129	101	+28	+27.7%
国内	48	34	+14	+41.2%
海外	82	68	+14	+20.6%
営業利益率	6.5%	5.5%	+1.1pt	—

ユニット別 施策

加工食品

- DHAなどを活用した差別化戦略で競争優位性を強化
- 価格改定、販促費・商品ポートフォリオ見直し
- 国内市場の変化に対応した生産体制に見直し
- ペットフード事業強化

ファインケミカル

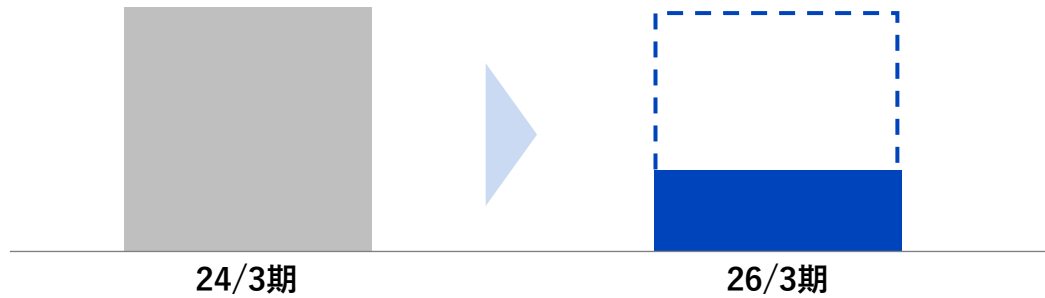
- 医薬品原薬事業の拡大
- 機能性表示の取得により、既存製品の付加価値を高め、売上拡大を目指す
- 微細藻類由来DHA事業の推進

ユニット別 事業環境

加工食品	・ ペットフードの販売は引き続き堅調の見込み
ファインケミカル	・ 原材料高及び健康食品の規制強化の動きを注視

政策保有株式について

- ・ 政策保有株式は資本効率の観点から**継続的な縮減**を実行
- ・ 2025年3月期中に公表した「**保有残高3分の2縮減**」を達成（2024年3月期比の取得原価ベース）

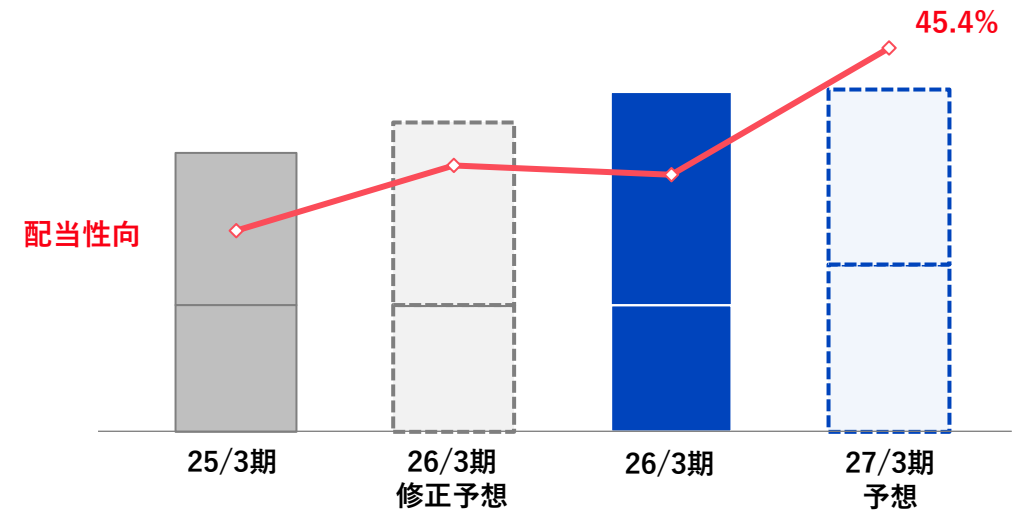


今後の方針

- ・ 政策保有株式は、原則として縮減方針
- ・ 保有は取引先との戦略的な取組み、当社グループの中長期的な企業価値向上に資すると判断する場合に限定
- ・ 保有の合理性は毎年検証し、基準を満たさない銘柄は縮減を進める
- ・ 進捗状況は每期開示

配当について

- ・ 2026年3月期の1株当たり期末配当金を、2026年2月9日に修正した24円に対してさらに**4円増配し28円**、年間配当金は株式分割考慮後で44.67円（配当性向30.4%）
- ・ 2027年3月期の年間配当金は45円（配当性向45.4%）を予想



中間	16.67円	16.67円	16.67円	22円
期末	20円	24円	28円	23円
配当性向	23.8%	31.5%	30.4%	45.4%

- 完全子会社であるUmios ロジ（旧マルハニチロ物流）の発行済株式の51%を、センコーグループに譲渡
- これにより、総資産約500億円、有利子負債約300億円がBSより除外される見通し（Umios ロジは持分法適用会社へ）

■ 株式譲渡の背景

物流業界での人手不足・エネルギーコスト高騰など事業環境が大きく変化



物流機能の持続可能性向上に向け、物流専門企業のノウハウ・経営資源の活用が不可欠と判断



高次加工品対応の物流品質・保管能力・輸配送において、センコーグループが当社にとって最適なパートナーであり、Umiosロジの力を最大限に伸長できると確信

■ 株式譲渡後について

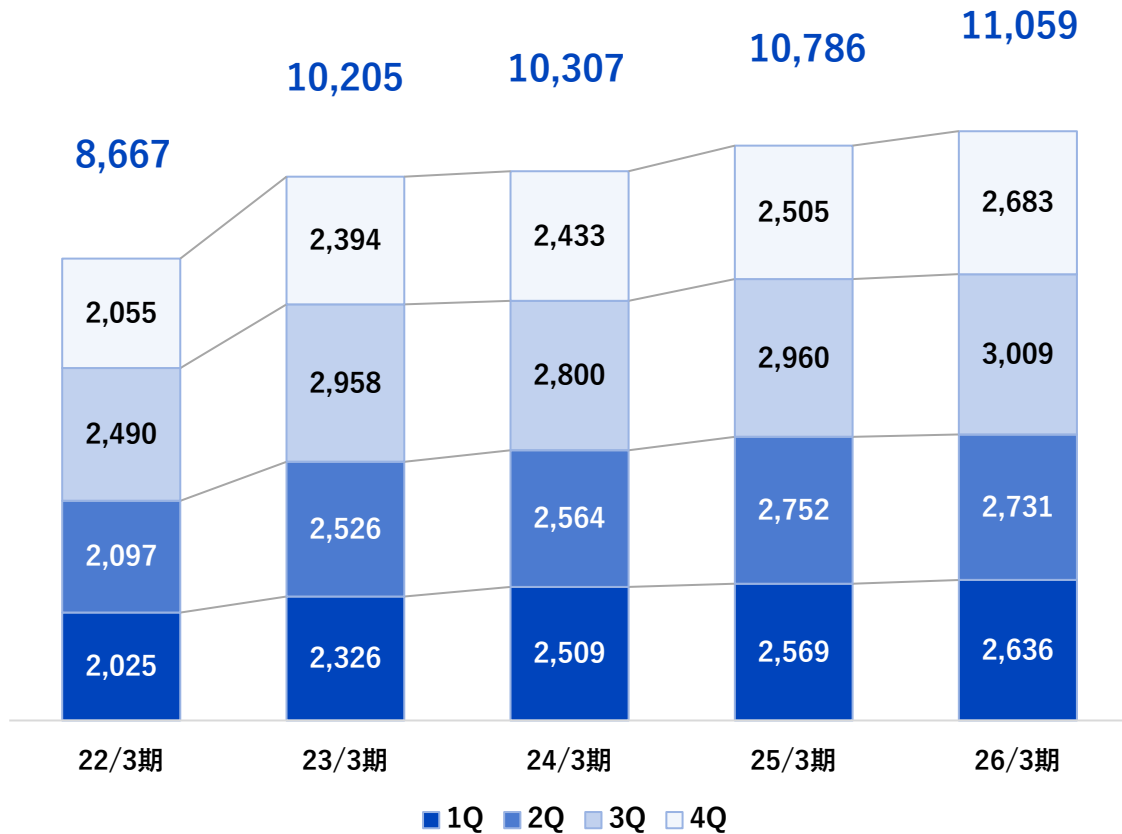
センコーグループへ譲渡後も、UmiosロジはUmiosグループの物流機能の中核を担う存在として安定的・持続的に物流サービスの提供を継続

当件に関する詳細は適時開示をご確認ください



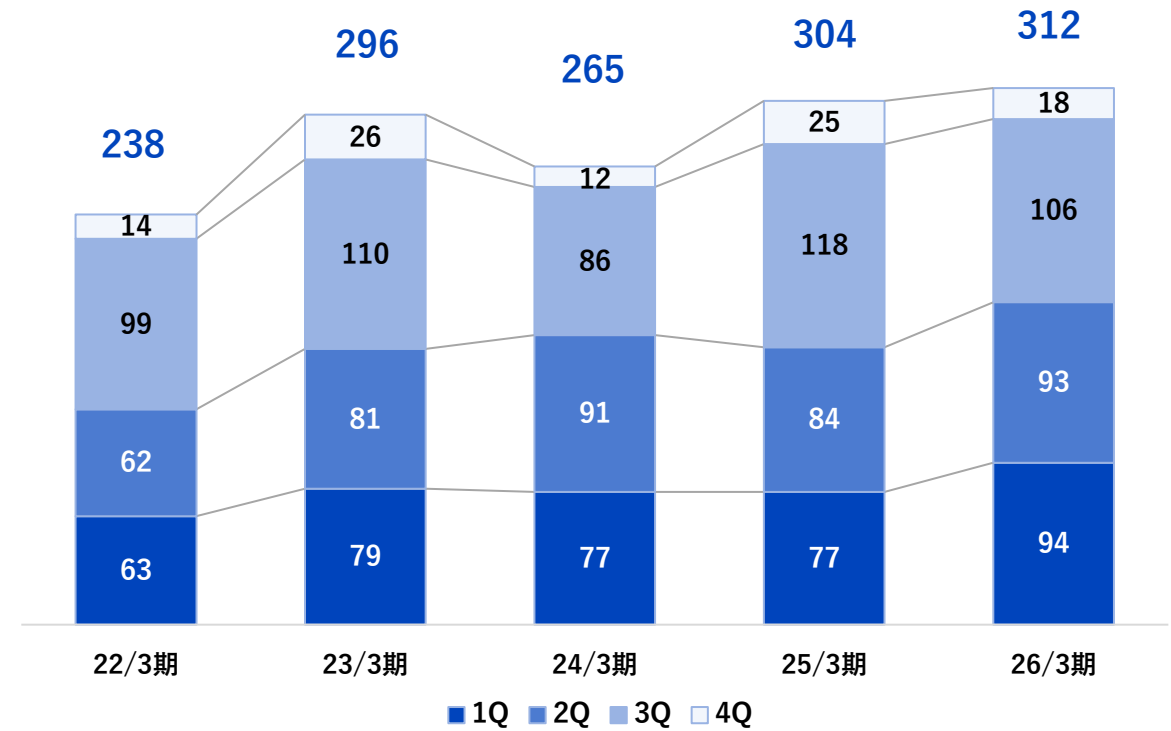
3. Appendix

売上高



営業利益

(単位：億円)



セグメント・ユニット別 四半期別実績(2026年3月期組織)

セグメント・ユニット別の実績推移
(Excel形式)ダウンロードは[こちら](#)から



(単位：億円)

	2026年3月期									
	売上高					営業利益				
	1Q	2Q	3Q	4Q	通期	1Q	2Q	3Q	4Q	通期
漁業ユニット	80	82	99	83	345	0	1	10	△7	4
養殖ユニット	45	50	63	53	211	1	1	2	4	8
北米ユニット	163	195	174	205	738	4	3	2	3	13
水産資源セグメント 計	289	327	336	341	1,294	6	4	14	0	24
国内	144	157	190	149	639	△2	△2	8	△2	1
海外	145	171	146	193	655	8	7	6	2	23
水産商事ユニット	1,023	1,067	1,252	1,084	4,426	32	34	38	12	116
食材流通ユニット	610	615	680	582	2,487	14	11	17	1	44
農畜産ユニット	194	199	214	179	787	2	△1	0	△3	△2
食材流通セグメント 計	1,827	1,880	2,147	1,845	7,699	48	44	56	9	158
国内	1,528	1,552	1,794	1,424	6,298	33	28	39	△8	93
海外	300	328	352	421	1,402	14	16	17	17	65
加工食品ユニット	448	451	450	424	1,774	37	34	19	1	91
ファインケミカルユニット	20	20	21	23	83	2	2	3	3	10
加工食品セグメント 計	468	471	471	447	1,858	38	36	22	4	101
国内	303	309	321	280	1,213	12	13	10	△1	34
海外	164	162	151	168	645	27	23	12	5	67
その他	52	52	54	50	208	2	8	14	5	29
合計	2,636	2,731	3,009	2,683	11,059	94	93	106	18	312
国内	2,023	2,066	2,355	1,897	8,342	45	45	68	△9	148
海外	613	665	654	786	2,717	49	48	39	28	164

セグメント・ユニット別 四半期別実績(2027年3月期組織)

セグメント・ユニット別の実績推移
(Excel形式)ダウンロードは[こちら](#)から



(単位：億円)

	2026年3月期									
	売上高					営業利益				
	1Q	2Q	3Q	4Q	通期	1Q	2Q	3Q	4Q	通期
漁業ユニット	80	82	99	83	345	0	1	10	△7	4
養殖ユニット	18	22	33	25	98	3	1	△2	△1	0
北米ユニット	162	191	166	199	718	5	3	2	3	13
水産資源セグメント 計	260	295	299	307	1,161	8	5	9	△4	17
国内	115	125	153	114	506	△0	△2	3	△7	△6
海外	145	171	146	193	655	8	7	6	2	23
水産商事ユニット	1,052	1,099	1,290	1,119	4,559	30	34	43	17	124
食材流通ユニット	610	614	680	582	2,486	14	11	17	2	43
農畜産ユニット	194	199	214	179	787	2	△1	0	△3	△2
食材流通セグメント 計	1,856	1,912	2,184	1,880	7,832	46	44	60	14	164
国内	1,556	1,584	1,832	1,458	6,431	32	28	44	△3	101
海外	299	328	352	421	1,400	14	16	16	17	64
加工食品ユニット	446	449	448	422	1,765	37	34	19	1	90
ファインケミカルユニット	22	22	24	25	93	2	3	3	3	12
加工食品セグメント 計	468	472	472	447	1,858	39	36	23	4	101
国内	303	309	321	279	1,213	12	13	10	△1	34
海外	165	162	151	168	646	27	23	13	5	68
その他	52	52	54	50	208	2	8	14	5	29
合計	2,636	2,731	3,009	2,683	11,059	94	93	106	18	312
国内	2,023	2,066	2,355	1,897	8,342	45	45	68	△9	148
海外	613	665	654	786	2,717	49	48	39	28	164

※2027年3月組織に組み替えた数値は参考数値です

Thank You

- 当資料に記載されております計画や見通し、戦略など歴史的事実でないものは将来の業績に関する見通しであり、これらは現時点で入手できる情報から得られた判断にもとづいております。実際の業績は様々な重要要素により、これらの見通しとは異なる結果をもたらしうることをご承知おきください。
- 本資料には監査を受けていない概算値を含むため、数値が変更になる可能性があります。
- 本資料の著作権やその他本書にかかる一切の権利はUmios株式会社に属します。

【資料のお問い合わせ先】

Umios株式会社 経営企画部IRグループ
ir-info@umios.com

